

今日は『世界3 大宗教は何が違うのか？』というテーマで、是非お話ししたいと思っていました。

その前に。オーストリアの動物学者 コンラート・ローレンツ博士（1903-1989）が『ソロモンの指環』という本を書きました。

動物の不思議な生態について色々説明していて、その中に、七面鳥を取り上げている章があります。

七面鳥は喧嘩っ早いというか短気な鳥ですが、戦っていて「俺、これ勝たれへんわ。勝ち目ないわ」と思ったら、突然、地面に腹這いになるそうです。そして、首をぐーっと伸ばして。

これは「もう降参」というポーズ。この白旗上げるポーズを取ると、勝ってる方は威嚇の姿勢は変えないけど、地面に倒れている七面鳥の周りをグルグル回るだけで、それ以上追い詰めて死に至らしめる事はないそうです。

七面鳥とちょっと似てる鳥にクジャクというのがおるんですが、似てるので時々クジャク VS 七面鳥の戦いがあるんです。クジャクの方が体重もサイズも大きい。フェザー級とヘビー級みたいなもんや。

当然クジャクが勝つ事が圧倒的に多い。その時、負けてる方の七面鳥は、自分たちの暗黙の了解をここでも使いまして、突然腹這いになって首をぐーっと伸ばす。

そうしたら「お前、なにやってんねん」みたいなもんですよ。クジャクはここぞとばかりにかさにかかって、腹這いになっている七面鳥をつつき回して、最後まで追い詰めて行くという話。

この七面鳥の悲劇はどこから始まったのか？

「七面鳥が考えるようにクジャクも考える」と考えたところにあると思うんです。

日本人は外国の人とお付き合いをしたり、世界情勢で色んな事を考えていく時、ついつい「日本人が考えるように海外の人も考えているに違いない」と思い込んでいる部分があるけど、自分が持っている価値観や世界観がどこでも通用するかというところじゃない。

今世界人口は、ブルゾンちえみによると 70 億だそうです。そのうちの 40 億が世界3 大宗教に所属しているそうです。つまり、全世界の 7 人のうちの 4 人は世界3 大宗教の価値観で生きているのですが、私たち日本人は、これ本当に分かってないと思う。

2 年前の 2016 年 7 月、バングラデシュ（親日の国ですよ）のダッカのレストランに、イスラム原理主義テロリストがバサッと入り、何十人もの人々が人質に取られて 28 人が射殺されました。

殺された人たちの 7 人は日本人です。犯人はイスラム原理主義過激派ですよ。

後でニュースに出て来た話では、殺された日本人の 1 人がテロリストに向かって「やめてくれ！俺は日本人だ！」と言って、バン！撃たれてるんです。

彼は「俺は日本人だ」という事が相手に伝われば狙われないと考えた。

特にアメリカはアフガニスタン・イラク・シリア、そういうイスラム圏に戦争、軍隊を送ってますよね。ロシアだって国内のイスラム教徒を弾圧してるし、中国もウイグル人のイスラム教徒を弾圧してる。

だけど、日本は戦後 73 年間、世界のどこにも戦争してない。世界で 1 番平和で友好的な国でしょ。

日本人はイスラムの人たちから恨みを買うような事はしてないので、日本人だという事が分かれば撃た

れないと考えたんです。

でも、テロリストは恨みでやってるのではない。イデオロギーでやってるんです。

日本人は「別にしこりもない。恨みもない。私たちが誠実に気持ちを訴えたら通じる。」通じません！

これから世界がどう動いていくのか。なぜ、ユダヤ人はエルサレムをあんなに大事にするんですか？

トランプ大統領は今年（2018年）5月14日、イスラエルのアメリカ大使館をテルアビブからエルサレムに移します。なんで5月14日なんですか？70年前の5月14日にイスラエルが出来たからでしょ。

でも、なんで今のタイミングでやりますか？

これは全部、世界3大宗教というか、この宗教というか世界観に立っている人たちのものの考えが分からない限り、なぜそうするのかが見えない。

で、日本人だけが冷静で、理知的で、バランスが取れてるみたいに思って「あんな宗教、怖いし」みたいな。それでは、もう駄目です。ついていけません。読めない。世界が。

1番分かりにくいのはイスラム教でしょう。

私が東京で時々行く中東の料理屋さんのシェフがパキスタンの人。私をゴウさんと呼んで「ゴウさん、いらっしやい。」紳士的でフレンドリーで私の好みを知っていて、そして敬虔。

私が祈っていると「シー。」他の人を静かにさせる。

日本の普通のレストランで食事の前に祈っている時、何回ウエートレスに邪魔されたか分かりませんよ。

「はい、サイコロステーキです。」（祈ってんねん、俺は）と。だから、神様を知らない日本人たちよりも、よっぽど付き合い易いというか紳士的というか。その人たち、イスラームの人なんです。

ところが同時に、イスラム国とかアルカイダとか。イスラム国、黒い旗持ってるでしょ。

黒地に白抜きで字書いてある。あの字はイスラム教の信仰告白の文章ですよ。

「アラーの他に神は無く、ムハンマドはアラーの使徒である」と書いてあるんです。

そのアラーの名前によって、自爆テロや色んなめっちゃめっちゃな事をやっているわけですよ。

こちらにもものすごく平和的なイスラムの人がいるかと思ったら、こちらでイスラムの名をかたりながら自爆テロをやっている人がいる。なんなん、これ？…という事を、これから考えていきたいわけです。

まず、世界3大宗教、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教は何が違うのかを語る前に、この3つには共通点もあるんです。色々ありますが3つにまとめます。

1. ユダヤ教もキリスト教もイスラム教も、無から有をお造りになった唯一の創造主を信じている。

この世界は偶然に出来上がったと、そんな事を思っている人はいません。この世界を造った第一原因者・目には見えないけれど創造主がおられるという事は共通認識として持っています。

2. 人も世界も始まりと終わりがある事を信じている。

現世と来世がある事を信じています。現世は必ず終わり、来世は必ず来る。現世が終わったら来世がある。人は死んだら永遠の世界が待っているけど、行き先には永遠の天国と永遠の地獄の2つがある。

死後の世界は永遠の天国か、永遠の地獄かのどちらかである。これは共通認識です。

3. 永遠の天国か地獄かは、最終的に一人ひとりの人間が神の前に立って最後の審判を受ける。

最後の審判で、神の前で一人ひとりが問われる。神の前に立つ時が来る。これは共通認識としてあります。

そういう世界観はあるけど、どんな人も地獄に行きたい人はいてないと思います。
「地獄行きたい」って笑いながら言っている人は、見た事ないから、それ。

どんな人も地獄ではなく天国に行きたいと思っっていると思いますが、そこに入るための手段というか方法というか道が、この3つで違うんです。なぜ違ってくるのか？

正典として受け入れているものが違う。神の言葉として何を認めるのか。何を受け入れているのか。これが違う。ここの違いが、当然、いかに神に受け入れられて行くかの違いとなって表れて来るんです。

まず、ユダヤ教から行きます。時系列で、1番最初はユダヤ教なんです。

正典は旧約聖書です。但し、ユダヤ人は旧約聖書という言い方はしません。

皆さんのお手元にある聖書の前半部分 39 巻が旧約聖書で、ユダヤ人は『タナハ/Tanakh』と言います。

ユダヤ人の分類によると、聖書は3つに分ける事が出来て、T/N/Kの頭文字でタナハ。

Tはトーラー/律法。Nはネビーム/預言者。Kはケトビーム/諸書。

これは、皆さんが持つてる旧約聖書 39 巻と全く同じ、と考えて問題ありません。

何が書いてあるか要約すると、神が罪に堕ちた人類を救うための救済プラン。それが旧約聖書です。

“創造主が私たちを罪の中から救い出すために、やがて救い主を送ります。救い主はヘブライ語で「マシアハ/メシア」。メシアを通して私たちを個人的に救うだけでなく、この世界を一新します。”という約束。

問題は、今のユダヤ教は『旧約聖書/タナハ』だけを神の言葉として信じるのではなく、これ以外のものも正典として採用しているんです。それは『口伝律法』。今は口伝ではなく文章化されています。

旧約聖書を解釈したものが『ミシュナー』。ミシュナーを注釈したものが『ゲマラー』。

この2つを合わせて『口伝律法』です。

聖書読んでたら、それでいいやん…。ミシュナー・ゲマラーを書いたのは聖書研究者・律法学者です。

彼らは聖書を勉強して注釈・解釈をするのですが、ミシュナー・ゲマラーは聖書に対する学者の見解にすぎなかったにも拘らず、徐々に徐々にトーラーや旧約聖書と同じほどの権威、ある場合は、旧約聖書以上の権威を持つものと見なされるようになったのです。時間と共に。

今日はユダヤ教を詳しくする事は出来ないんです。したいけど、イスラム教に行かなきゃならない私。なんでこんな注釈が出て来るのか簡単に言うと、ユダヤ人はバビロン捕囚から帰って来た時、律法は絶対厳格に守らなアカんと。そのためには、細かい正確な解釈が必要になって来るんですね。

例えば、“安息日には仕事をしてはならない”というルールがあります。

安倍内閣が働き方改革を言うはるか昔に、人類史上最も古い働き方改革。「安息日は休め。」

週に1回、ユダヤ人は土曜日。「主人だけじゃない。従業員もしもべも奴隷も、ろばも牛も家畜も、みんな解放してあげなさい。」神の命令だから、解放しなければならないのです。

これは、こき使われている者にとっては有り難い。皆さん、「うんうん」て。大変な職場やね、これね。解放されて初めて余裕が出て来ます。神に心を向ける事も。

ユダヤ人はこう考えたんです。「安息日に仕事をしてはならない。分かった。じゃ、聞くけど、“仕事”の正確な細かい定義してください。」

例えば。安息日も3食ご飯食べますね。朝昼晩、主婦がご飯作る事は労働じゃないの？作る時に火を点ける。灯す。これ、労働じゃないの？

安息日に外国の軍隊が攻めて来た時、兵士が守備防衛の任務に就いて戦うのは兵士の仕事じゃないの？私、なんでそれを疑問に思うのかが疑問や。それ、分かるやろと思うんですけど、分からへん。

「厳密にやって！」「“仕事”の定義をちゃんとやって！」色々細かな細かな質問が出て来て。

しまい、安息日にボタンがポトッと落ちた。これ拾ったら仕事やで。

ズボンの左ポケットから背広の左ポケットに入れるのは仕事じゃないけど、背広の左ポケットから右に入れたら仕事やとか。どないなってんの、これ？

ミシュナー・ゲマラー（口伝律法）は聖書の言葉に対する学者の見解にしかすぎなかったのに、どんどん権威付けされて、等しい権威を持つものとなってしまった。

しかも、その中身は聖書が語っている趣旨からどんどんずれて行くんです。

例えば、安息日に医者の方に急病人が運ばれて来た。医者が診察するのは労働です。

だから、あるラビはしてはならないと言う。でも、安息日は人を解放するためにある。

病氣から解放するんだから、してあげたらいいじゃない？あかん。

学者たちの聖書に対する解釈・注釈が、本来の聖書の趣旨からずれて行っているにも拘わらず、聖書と同じくらい権威あるものと見なされて行く。それに対して「こんなものは災いだ！」と激烈に批判する方が1世紀に登場しました。それがイエス・キリストです。

キリストは「災いだ。偽善の律法学者、パリサイ人。あなた方は聖書の言葉を無にしている！」

福音書を見ると**口伝律法**（ミシュナー・ゲマラー）の学者とイエス・キリストの対決がいっぱい出て来る。

「偽善者！」と言われた方は気分ええ事ないですよ。「俺、尊敬されてんのに、偽善者で言われた！」

「俺に偽善者で言うのか?!」「偽善者！」

口伝律法はキリストの時代には既にありますが、2世紀くらいから文章化されます。

2世紀に**新約聖書**が普及するようになり、新約聖書の観点で旧約聖書を学ぶという事で、世界に非常にインパクトがある。それに対抗するには、いつまでも口伝やったらあかん。それで文章化して行くんです。

そして、5世紀・6世紀くらいに『**タルムード**』が出来るのです。

これに対してキリストが激怒した最大の理由は、ユダヤ人は神の御言葉/**聖書**を与えられていながら、**口伝律法**のために聖書を正しく読む事が出来なくなったから。これです。つまづくんです。

まず、イエスがメシアだという事が分からなくなる。なんで？**タルムード**の中に悪口書いてある。

実は、家内がめちゃくちゃイスラエル好きなんです。どれくらい好きかというたら、“メチャクチャ”。

オリンピックの柔道でイスラエルと日本が戦っている時、日本の選手が先に有効取られた。

そしたら「やった！」ガッツポーズ。えっ！僕は昔柔道部だったから「国民なんちゃう?!」みたいな。

ある時、大阪にイスラエルの雑貨を扱っている店が開店したという、ちっちゃーい記事が載った。

ちっちゃーい記事なのに、“イスラエル”と見ただけでピーっ！反応して。「ここ！行きましょう！」

イスラエルの文具や雑貨が売ってある。

そこに銀のリングがありました。僕はエンゲージリングも結婚指輪も渡してないし。

この際、銀の指輪かと。チラッと額見たら3千円。よっしゃー！

その売りは、リクエストした文章をヘブライ文字でリングの内側か外側に打つ事が出来るんです。

英語だったらあるでしょうね。でもヘブライ語で。「ユダヤ人の銀細工人がいて刻印できますから、何でも言ってください。」

英語で言うと “In Jesus Christ” 「キリストに在って」。これをヘブライ語でと。
ヘブライ語でイエス・キリストを “イエシュア ハ マシアハ” と言います。
キリストは “マシアハ”。メシア。
イエスは “イエシュア” これは「主は救いである。」めちゃくちゃええ名前。「主は救い」。

“איש” (イエシュア) これを打ってください。「1 か月くらいかかります。」「楽しみに待ってます。」「出来ました。」電話かかって来たから、夫婦で「遂に出来たぞ！」と行ったんですが…。
彼女は指輪をつまみあげるや否や絶句！なんと、最後の “y” (アイン) がなかったんです。
“イエシュ” になってる。イエシュは「呪われた者」という意味です。俺たちの結婚は呪われた…。

いや、それよりもですよ。ユダヤ人はイエスを “イエシュ” と言うんです。わざと。
わざとと言うよりも、悪気があって、そうしたんじゃないんです。
『ヘブライ語でイエス・キリストと打って』と言ってました。「あー、分かった。分かった。」
打ってくれた人は、客に不快感を与えるためにそうしたんじゃないなくて「イエス・キリストはヘブライ語でイエシュなんだ」という以外の情報を持ってないわけ。「呪われた者」。

彼女は、イスラエルから来た留学生にヘブライ語のマンツーマン家庭教師を頼んでいた時期があって、ヘブライ語会話を勉強してました。今でもやっています。毎晩。やっていますわ。
ところが「イエシュアは」と言うと、必ず「イエシュでしょ」と言うんです。
「いや、イエシュアが…。」「いや、イエシュ。」
「もう、気分悪いわ」と。イエシュアの事をイエシュアって呼んだ事、1 回もないのよ。
イエシュ/呪われた者というのがへばりついている。張り付いている。

なぜか？ラビ的ユダヤ教によると、イエス・キリストは神が送った救い主ではなく、人類史上、ユダヤ人の歴史の中で1番最初にメシアを名乗ったニセモンなんです。
イエス・キリスト以前に「私が救い主だ」と言った人は1人もいません。最初に「わたしはメシアだ」と仰ったのがイエシュア ハ マシアハ (イエス様) です。けど、ユダヤ人はそれを認めていない。
「彼は呪われた者である」と入るのは、それがラビ的ユダヤ教の結論だから。

だから、正典の**旧約聖書**を読むだけではなくて、読む前にバイアスのかかった**口伝律法**や**タルムード**の情報で、ひん曲がってそれを読んでしまうから、メシアが来てるのに分からない。

更に、救いが分からへんのです。ユダヤ人はどうやったら天国に行けるか？
ラビ的ユダヤ教によると、何もしなくても、ユダヤ人として生まれた事で自動的に天国に行くんです。異邦人は知らん。でも、ユダヤ人は選ばれた民族で、アブラハム契約の中にあって。

ある時、イエス・キリストが「もしあなた方がわたしの言葉に留まるなら、あなた方は真理を知るようになる。そして真理はあなた方を自由にする」と言われました。
ユダヤ人たちがカチンときて「ちょっと待ってください。私たちはアブラハムの子孫で、だれの奴隷になった事もないんですよ。奴隷状態の人に『自由にする』と言うのは分かるけど、奴隷じゃないのに、何をもって自由に？私たちはアブラハムの子孫ですから。ユダヤ人ですから。奴隷なんかじゃありませんよ。」

その時キリストが「誰でも罪を行っている人は罪の奴隷です。」「いや、私たちの父はアブラハムです。」「だったら、アブラハムがする事をしなさい。アブラハムはわたしを殺すような事はしない。」平行線。

このストーリーをずっと見て行くと、自己認識が全然違う。イエスはユダヤ人に「あなた方も救われなければならない者だ」と伝えているけど、彼らは「私たちはアブラハムの子孫なんだから、誰の奴隷でもありません。罪人なんかじゃありません。罪はない。」「だから、罪が残るんだ。」

なぜそんな事になるのか？その自己認識はどこから出て来たのか？ラビ的ユダヤ教です。だから「メシアによって救われなければならない！」じゃなくて「ユダヤ人だから大丈夫。」律法を一生懸命守るのは、天国に行っていいたいポジションに就くためです。これがユダヤ教です。

次は、いわゆる**キリスト教**。キリスト教という言い方はあんまり好きじゃないけど、ユダヤ教・イスラム教言うてるから。英語でキリスト教を何と言いますか？ Christianity/クリスチャニティです。英語で仏教は Buddhism/ブディズム。神道は Shintoism/シントイズム。イズムです。

でも、キリストイズムって言わない。

“教”と訳しているけど、明治時代、初め“キリスト道”と訳す翻訳者もいたくらい。日本人、道好きやから。茶道・柔道・空手道。キリスト道。「おお！」その方がのる人がいるかも分からへん。

説明する勝手、キリスト教と言っておきます。キリスト教だけクリスチャニティと言うのは変でしょ。

クリスチャン/クリスチャニティの人たちは何を正典にしているのか？**旧約聖書+新約聖書**です。

キリスト教は誰を信じているのか？イエスこそ、旧約聖書で神が約束しておられたメシア/救い主だという事を信じています。

イエスご自身はユダヤ人です。イエスが活動した場所はユダヤの世界です。イエスが語りかけた相手もユダヤ人です。そして、イエス・キリストを救い主だと信じた初代教会のメンバーは全員ユダヤ人です。ユダヤの世界で生まれたんですよ。極めてヘブライ的なものです。当然、旧約聖書も知っています。旧約聖書に基いて、「旧約聖書に預言されていた救い主はイエス・キリストなのだ。」

旧約聖書に約 350 か所の聖書預言があります。例えば「救い主はどこで生まれるか？ベツレヘム」とか。イエスの生涯についての 350 の預言が、その生涯で全部実現した事を証明しているのが**新約聖書**です。クリスチャンはこの両方を正典として認めています。

昔、イエスを信じたユダヤ人の証しを聞きました。以前はラビだったけど、ある時分かって、イエスを救い主として信じ受け入れた、ロシアから帰って来たユダヤ人ラビ。彼はこんなたとえ話をしました。「ある人が 4 輪馬車に乗って旅をしていた。ところが、ある時からえらく乗り心地が悪くなって、ガタンガタンと揺れがひどくなり、振動も大きくなって。調子がおかしいので馬車を止めて見てみると、車輪が 1 つ外れている。いつの間にか 3 輪馬車。4 輪で動いていたのが 1 個なくなっている。『えらいこっちゃ！すぐ車輪を付けなあかん。さあ、捜しに行こう！』と前方に走って行った。」

彼は言うんです。「この馬車に乗っている人はユダヤ人。ユダヤ人を運んでいる 4 つの車輪は、①アブラハム ②モーセ ③エリヤ ④イエシュア。

アブラハム契約によってユダヤ人が誕生した。モーセ（律法）とエリヤ（預言者）によって預言されたイエシュアがユダヤ人の中に入って、最も安定して歴史の展開・未来に向かって進んで行けるのに、1 番肝心なイエシュアがいない。ユダヤ人は、まだメシアが来てないという事で、未来に向かってメシアを捜しに行っている民だ。」

「でも普通は、途中で車輪が外れたら、後ろを捜しに行かなあかん。なぜ過去を見ないで、前に向かって

行くのか？ユダヤ人はやがて来るメシアを待っているけど、そのメシアは世界を一新するため。イスラエルを中心にしてもらうため。しかし、メシアは既に来たのだ！
2000年前に既にメシアは来た。にも拘らず、メシアがいないので乗っていても不安定。これがユダヤ人。このユダヤ人にイエシュアが加わった時、イエシュアという車輪が入った時、どんなに素晴らしい事が起こるだろうか。」

聖書の真理によると「預言通り、イエス様は神なのに人となってこの世界に来てくださり、私たちの罪を背負って、十字架にかかって、私たちの罪の身代わりとなって死んでくださった事・墓に葬られた事・3日目によみがえられた事を信じ受け入れる者は恵みによって救われる。キリストの命の償いによって救われる」と言っているのです。

これが**旧約聖書**と**新約聖書**、キリスト教が語っているメッセージ。単純な真理なんですね。

この単純な真理をクリスチャンたちはずっと保持して来たかという、残念ながらそうじゃなかった。最大の理由は、依って立つ旧約聖書と新約聖書から離れた。というか読めなかった。

旧約聖書は大部分がヘブライ語で書かれています。一部アラム語。**新約聖書**はギリシア語です。

3世紀にヒエロニムスというベツレヘムの修道士がいました。ベツレヘムの降誕教会に行くと、ヒエロニムスが旧約・新約聖書をラテン語に翻訳した部屋があると。ほんまか？見に行った事がありますが。彼がラテン語に翻訳しました。なぜラテン語か？3・4世紀頃、1番使われていた言葉がラテン語なんです。しかし、ラテン語は使われなくなって、フランス人はフランス語、イタリア人はイタリア語、スペイン人はスペイン語、これ全部、元はラテン語です。ドイツ人はドイツ語。ドイツ語の子供は英語でしょ。色んなヨーロッパの言葉が出て来るんです。

カトリック教会は、ヒエロニムスが翻訳したラテン語訳聖書『ウルガタ訳』を正式な聖書、これだけが聖書だとしました。一般人はギリシア語・ヘブライ語を読めない。

というか、ヨーロッパの人たちは識字率が低かったんです。自分の母国語、喋る事は出来るけど読み書きは出来ない。ましてや、ギリシア語・ヘブライ語分からへん。ラテン語なんてもっと分からへん。分からへん言葉を分からへん言葉に翻訳されても一緒！みたいな。

ラテン語が出来るのは特別な訓練をした人たちだけで、それが修道士や聖書研究者です。

一般人は読み書きできない。ましてやラテン語出来ない。

なので、聖書が何と言っているのかを、自分で読んで確認する事が出来ません。

それで、解説者が「聖書はこう言っている」と言う事を、鵜呑みにして受け入れる以外ないんです。

その内容が本当に聖書的なのかを自分で確認する術がない。ラテン語が出来へんかったから。

だから独占物だったんですね。

そして、免罪符が販売されるようになって「お金で罪の赦しが買えます。」

献金箱にチャリンとお金が入った瞬間「あなたの命は天国！」

正典から離れてしまったら、キリスト教でもただの宗教になるんです。

これを取り戻したのがルター。1517年ルターの宗教改革。この覚え方を教えます。

ルの左側は1。右側のVは5。タは1と7に見えるでしょ。1517。そんな、やらへんかった？

僕は大学受験、社会科6科目全部やったんです。何を考えてんのかと。

今にして思うと、浅く広い知識がなんと役に立つかと。その時覚えました。

ルターはギリシア語・ヘブライ語が出来た人です。聖書とは知らずに初めて**旧約聖書**を読んだ時「こんな楽しいものがあるのか！」と没頭して、そして**ローマ書**を読んで「**義人は信仰によって生きる。**」「なんと、行いではなかったのか！」と目が開かれていくのです。結局、**聖書**という正典から外れてしまったら駄目です。

聖書の真理に立ち返っても、同時に根っこに付けないと、本当に聖書的なものにならないんですね。旧約も新約も根っこはヘブライ的なものでしょ。だから、ユダヤ人の事を知らないとかダメなんです。そうでないと、異教化したキリスト教になってしまいます。

これがキリスト教です。正典は**旧約聖書**と**新約聖書**。そして、救い主イエス・キリストを信じる事によって人は救われます。イエス・キリストはただの人間ではなく、間違ったメシアではなく、人となられた神。まさしく旧約聖書によって預言されていた救い主です。

次はいよいよ**イスラム教**。正典は**コーラン**と**ハディース**。

コーラン：7世紀、ムハンマドが山の洞窟に入って瞑想にふけている時、天使ガブリエルが現れ、はがいにじめにして「唱えよ」と言うんです。彼は文盲で読み書き出来ない。「読めない。」「唱えよ。」「出来ません。」「唱えよ。」そして、出て来た言葉が信仰告白の言葉。約20年間にわたって、アラーの神様から断続的に様々な啓示を受けます。それを弟子たちが記録したものが**コーラン**です。

ハディース：イスラムの世界では、ムハンマドの人生・ムハンマドという人間が最も理想的な人だと言われているので、どう生きる事が敬虔に生きる事なのか、ムハンマドが言った事・やった事・思った事の言行録記録が**ハディース**です。

コーランと**ハディース**から導き出される色々な法律がイスラム法です。私もコーランを何冊も持っていますが、どれも読みにくい。岩波クラシックスのが1番読み易いです。でもコーランは分かりにくいですよ、これは。旧約聖書を読んで無理と言う人は絶対無理。旧約聖書は歴史が書いてあるから面白いんです。

コーランは旧約・新約の背景を皆が知っているという前提で、「余はこう思う」みたいな形で書いてあるから、旧約・新約が分からない人はチンプンカンプンです。そして、旧約・新約がしっかり分かっている人は混乱します。旧約・新約に出て来る話が微妙に変わっているから。というか。

例えば**旧約聖書**では、アブラハムの正妻がサラ。2人の子供がイサク。正式な跡取り息子です。サラの女奴隷がハガル。アブラハムの妾で、その子供がイシュマエル。彼は外に出されてしまいます。ところが**コーラン**では、アブラハムの正妻がハガル。女奴隷がサラ。イシュマエルが正式な長子の継承権を持っていて、イサクが出される。

ちょうどユダヤ人のポジションに入っているところが、アラブ人にきれいに入れ替わっている。だから、旧約・新約がよく分かっている人は「ええっ?!反転してるやん。」

これをイスラム世界はどう考えるか? 「後から出て来る啓示の方がより正しい。」

「旧約・新約のストーリーとコーランで語っている事が矛盾や衝突する時は、コーランの方が正しい」という解釈なんです。

イエス・キリストについては「神の子なんかじゃない。神は3人もいない」と書いてあります。これは三位一体の事を言っている。「神は、神とマリアとイエスではない。」

聖書が言う三位一体は父・子・聖霊。コーランでは父・マリア・イエス。

そういう間違っているというか、コーランによると、後から出て来る真理の方が正しい。

そして「イエスは十字架にかかってない。」いや、イエスの十字架は聖書の中心主題じゃないですか。でもコーランによると、「イエスは実際には十字架にかかってない。かかったように見えただけ。だから、かかったと言ってはならない。イエスは偉大だが、ただの人間で、預言者の1人である。」これが、イスラム教の中でのイエスの評価です。つまり、救い主がいないという宗教なんです。

イスラム教は難しい。さっきも言いましたが、何が難しいかと言うと、ある方々は平和の宗教だと言う。「イスラム教は平和の宗教です」と。私が知っているその中東の料理屋さんはほんまに平和な人ですわ。もう、タイガースファンはちょっと見習ってほしいわ、ほんまに。温厚な方です。

ヨーロッパのイスラムの指導者たちが、時々声明を出しています。

「イスラム国やアルカイダはコーランを悪用している。本当のイスラム教徒はそんな事しません。というのは、コーランの中に『悪い事をしていない者を理由もなく殺すのは、人類を滅亡させるのと同じである。』だから、あれはコーランを悪用しているだけであって、本当のイスラム教徒じゃないんです。」

一方、イスラム国やアルカイダは自爆テロやって。

後藤健二（ごとう けんじ/1967-2015.1.30）さん。湯川遥奈（ゆかわ はるな）さん。そして、ヨルダンのパイロットは火あぶりにされたでしょ。それを動画で流しているんですよ。ご覧になりましたか？

見ない方がいいと思いますけど。酷いです。

無差別殺人やって、奴隷制復活させて、めちゃくちゃな事をやっている。

しかも、自爆テロで「アラは偉大なり」と言って突っ込んで行く。イスラムの名の下にやっているわけ。

平和な宗教だと言っている人もいるし、めちゃくちゃな事をするイスラム国みたいなものもあるし、どちらが本当なのか？どうなっているのか？

この問題を見事に解説する研究者が遂に日本に出た。この人、これから出て来ると思う。

僕がイスラム研究で注目している方は池内恵（いけうち さとし/1973-）さん。

東大の賢い人ですが、その彼が絶賛している人です。

女性の研究者で、飯山陽（いいやま あかり/1976-）さん。

この方の『イスラム教の論理』という本を読んで、目からうろこが10枚ほど落ちました。ポロポロポロ。なので、これから申し上げるのは「高原さん、よう勉強したな」違います。受け売りです！全部受け売り。私がチマチマと研究したのではなく、そこに書いてあるのを、そのまま右から左に移すだけ。凄い本。彼女のブログ読んでみたら、またこれがスゴイ！今検索しないで。自宅でやってください。

この方が見事に解説してくださっています。飯山さんはイスラム法の研究者です。

「今までイスラム教の話しするのは2種類の人だ。1つは中東問題の分析家で、ロクにイスラム法を学んだ事もないのに、イスラム教はああだこうだと言っている。」ものすごく耳が痛かった。俺のことか？

そして、「もう1つはイスラム教に改宗した日本人。」

「この2種類の人たちは『イスラム教は平和だ』と言う。そして、『極端な事をやる過激派はイスラム教に当たらない。おかしい連中だ。イスラムの名前を悪用している悪い人たちだ』という言い方をするが、ここで、イスラム教の教義についてお知らせしたい事がある。」

イスラム国のバクダディ（1971-2019）は「コーランにはっきりと『ジハードで戦え』と書いてある。ジハードは全イスラム教徒の義務である。我々は義務を遂行しているのだ」と言っています。

イスラム教では“コーランの1つの箇所から2種類の相対立する解釈が出て来た時は、どちらの解釈も等しく価値がある”という教義があるそうです。

聖書を読んでいて、正反対ならどっちかが間違いです。聖書では1つの語句に対して1つの解釈。

でもイスラム教では、コーランから導き出された解釈が複数ある場合、例えば3つあるなら、3つ共価値を持つ。それがイスラム教の教義だそうです。

なので、穏健派の考え方も過激派の考え方も、両方共イスラム教なんです。

イスラムの世界にも法学者がおられます。特にヨーロッパで指導している法学者たちは、「穏健派は平和の宗教で、悪用して過激な事をやっているのはイスラム教ではない」と言いますが、彼らも「過激な解釈であったとしても、コーランから引用している限りイスラム教の中に入る」という事を知っている。にも拘わらず、なぜそれを言うのか？

平和の宗教だと言わないと、ヨーロッパで生活できないんです。

「危険な人たちだ」となってしまうたら、ヨーロッパで受け入れてもらえない。

なので「本当は自分たちが言っている事は嘘だ」と知っていながら、そう言っているのだと、いいですか、飯山さんが仰ってます。

穏健派から過激派まで非常にグラデーションがあって、様々な立場があるけど両方共正しい。

だから「イスラム国はイスラム教ではない」とは絶対に言えません。

それどころか、穏健派と過激派の法学者が意見を戦わせたら、基本的には引き分けだけど、説得力を考えると過激派の方が説得力がある。なぜなら、イスラム教は「コーランをとにかく全部実行しろ！」
“イスラム”には“絶対服従”の意味があるんです。「服従して、やれ！」

アラブのイスラム圏に“アブド”という名前の方がたくさんいます。アブドは“奴隷”の事。

例えば“アブダラ”は“アブド アル アラー”を縮めたもので、“アラー（神）の奴隷”という意味です。

“アブドル・アジズ”は“高貴なる方（神）の奴隷”。

前のサウジアラビアの王様は“アブダラ・イブン・アブドル・アジズ”さん。

翻訳すると“神の奴隷の息子である神の奴隷”。それを限りなく誇らしく思うのがイスラム教。

奴隷は主人の言う事に口答えしません。命令は何が何でも実行する。「無理」とか口答えはないんですね。

実際コーランに「一部実行するけど、一部実行しないという者は呪われる」と書いてある。

私、書いてあると適当な事を言っているんじゃない。この本には「コーラン〇章〇節に書いてある」と全部出てるんですから。今、それを言う事は出来ないけど、本をお読みください。

それを考えると、今の穏健派イスラム諸国で、コーランが命じている事をやっている国は1つもないと。エジプトの90%はイスラム教徒です。コーランに「偶像をぶっ倒せ」と書いてありますが、エジプトには

ピラミッドがありますね。スフィンクス。ルクソールの神殿。ぶっ潰してます？貴重な観光収入ですよ。あれを潰すという事は、大阪でいうとユニバーサル・スタジオ・ジャパンなくすのと一緒ですよ。誰が来ますか？

だけど、イスラム国が新しい領域を支配した時に最初にする事は、古代遺跡を粉砕する事なんです。どちらが忠実に実践しているか？「実行が大事！」という観点で見ると、過激派の方が説得力があると。

今のサウジアラビアの王子はムハンマド・ビン・サルマン/MBS。毎日放送（MBS）ではありません。お父さんのサルマン国王は息子 MBS を皇太子にしました。つまり次の王様になる。だけど、彼が皇太子になる前に、既に皇太子が決まっていたんです。サルマン国王の前の国王の息子に。ところが、サルマン国王はやっぱり身内が可愛くなって、王位継承権ナンバーワンの皇太子を引きずりおろして、自分の息子を皇太子にした。サウジアラビアのイスラム法学者たちは「歓迎します」と承認を与えました。

イスラム教スンニ派は、世襲は駄目だそうです。でも、サウジアラビアは基本的に世襲じゃないですか。サウジアラビアの“サウジ”は人/王様の名前ですよ。“サウジさんちのアラビア”という意味。世の中に色々な国がありますが、個人の名前が国の名前になっているのはここだけや。北朝鮮ですらですよ、朝鮮民主主義、民主主義？非人民非共和国みたいな感じですよ。

という事は、穏健派イスラム法学者は結局御用学者でしょ、と言うんです。公務員でしょと。つまり、穏健派イスラム法学者は自分がいる国の最高権力者に忖度しているのです。忖度ですよ。これは、過激派から見るとおもねり。妥協。どちらがより忠実か？なら、軍配は過激派の方に上がるんじゃないの？というのが飯山さんの意見です。

イスラム教スンニ派で唯一認められている政治体制はカリフ制。カリフは“代理人”という意味がある。誰の代理人か？ムハンマドの代理人です。ムハンマドが亡くなった後、彼の代理人を中心とした政治体制を行う。これだけが、イスラム教にのっとっている政治体制です。

カリフ制のカリフはどうやって決まるのか？周囲の人間から推薦され、承認された人がカリフになると書いてあります。では、その人物が本物のカリフかそうでないのかを、どこで見分けたらいいのか？その人が、イスラム法を厳格に実施するかどうかによるのです。

2014年にイスラム国の頭領アバクル・バグダディがカリフ宣言しました。彼の周りにも世界中にも、彼を推薦・承認している人がたくさんいるんです。「カリフ・バグダディはインチキじゃないか」と言う人はたくさんいるかも知れませんが、彼が支配権を置いたイスラム国では、イスラム法を厳格に実行してるんですよ。少なくとも、見かけだけでも奴隷制度を復活させたり、処刑は首切り。

コーランに書いてあるのは、まず布教しなさい。それで、イスラム教に改宗する場合はよし。改宗しない場合は2つ。殺害するか奴隷にするか。バグダディは、それを文字通りやったんです。イスラム教の教義ではカリフ制だけが唯一認められている制度で、1924年に最後のカリフが退位してから約100年間空位になっていました。

世界中のイスラム諸国が誰もしていないのに、2014年にバグダディが「私はカリフ制を復興させる」と。そして、それをやったというのを聞いた時の、世界中のイスラム教徒の心のインパクトは、私たちには分からないだろう。凄いインパクトがあったと。

更に強力なものがあるんです。それはインターネット。

先程キリスト教で、ラテン語が出来る人しか聖書を読めなかった時代、なぜそれはおかしいと見破る事が出来たかという、ルターをはじめ、母国語に聖書を翻訳し始めたから。

そして、グーテンベルグの印刷機ができて聖書印刷をするんですが、グーテンベルグは活版印刷機の発明後、完成しているのに3年間発表しませんでした。喉から手が出るほど早く印刷機が欲しいのに。印刷機が出来たら、しょうもない本も印刷されるという事を心配して。「これ、出すべきかどうか…。」

インターネットもそうでしょ。しょうもないのから広がるんちゃう？いかがわしいサイトとか。ギャンブルのサイトとか。2チャンネルとか。そんなんでブワッと行く。高尚な事ってあんまり。

コーランは7世紀のアラビア語で書かれています。という事は、アラブ人でない人は読めないんです。アラビア語で書かれたコーラン以外はコーランと認めないんですって。聖書は世界中の言葉に翻訳されているけど、コーランはアラビア語で書かれたものだけが正式。7世紀のコーランのアラビア語はアラブ人も読めないんですって。

だって、7世紀の日本語、皆さん読めますか？日本書紀・古事記。古事記、お読みになった事ありますか？全文漢字ですよ。「よう見たら逆さまやった」って、そんな世界。読めない。なので、穏健派法学者が「ええんや。こうなんや！」と言ったら、本当はコーランはそんな事言っていないというのを見破る事が出来なかった。

でも今は、インターネットでグーグルというのがあるんですね。ググるわけ。

グーグルで“コーラン”“母国語”“翻訳”パチン！キーボード1発でバーっ、出て来るそうです。“ジハード”打ったら〇章〇節にどれだけ出て来るか、ザーっ、出て来て。それ、よう分かるんです。聖書版でそれ使ってるから。

すると、今まではイスラム法学者だけの独占物だった知識が一般人に広く開かれ、それが明らかになって来ると、「なーんだ。過激派法学者が言っている事の方が、より字義的解釈に立っているじゃないか。」これが、各国の治安組織が叩いても叩いてもやまない1つの理由です。その結果、過激派のイスラム国やアルカイダが言っている事の方が、より忠実な実践だという事が明らかになってしまったんですね。

さて、先程言ったように、イスラム教徒は来世を信じています。死んだらゼロになるとは考えてない。死後、最後の審判で神の前に立って、永遠の天国か永遠の地獄に行くという事を信じてはいるけど、救い主はいないんです。イエスは十字架にかかったように見えただけで、かかってないというわけです。では、どうやって天国に入れてもらえるのか？

法学者の解説によると、イスラム教徒の右肩には善行を行った時に記録する天使が乗っていて、左肩には悪行を行った時に記録する天使が乗っている。善行をしたら「1個いい事」記録。天国に近づく。悪い事したら「1個悪行」一步下がる。

“三歩進んで二歩下がる”みたいな。毎日1日5回の礼拝を欠かさずやった。一歩近づいた。だけどお酒を飲んでしまった。飲酒は罪だから三歩くらい後退。その結果、善行が悪行よりも大きなカウントの場合、天国に入れてもらえるんです。

問題は、そのスコアを本人が見る事が出来ないという事。今どれくらいなん？分からへんねん。いつ分かるか？死んでみないと分からないそうです。すなわち、絶対に安心して死ねない。いつも「大丈夫かな？あかんのちゃうか？いけるかな？だいぶ行けそう。でもあかんみたい。」分からない。分からない。全き平安や確信に至る事がないんですね。

しかし、1つだけ100%天国に直行できる究極の善行がある。それがジハードです。ジハードは異教徒との戦いで、自爆攻撃・殉教攻撃。体に爆弾巻いて、突っ込んで行って、死んで、ジハード。

池上彰(いけがみ あきら)さんが「ジハードには小ジハードと大ジハードがある。小ジハードは殉教攻撃。イスラムの戦いのために命を捨てる。大ジハードには努力という意味もあって、日々自分の弱い心を克服して行く内面的修行・内面性を深めて行く努力のジハードもある。だから、ジハードが全部悪いわけじゃない」と言っておられるのを何度か聞きました。

この本に池上さんの事は書いてません。が、「そういう事を仰る方もいますが」と書いています。「しかし、『ジハードは内面的努力を指す意味もある』と言っているハディースは、歴代イスラム法学者全員から贋作と言われているものです。」ニセもん。「だから、ジハードには1つの意味しかないというのが、正式にイスラム法学を研究している人たちの見解です。」

ジハード/殉教では、少なくとも4つの特権が与えられます。

①血を流した瞬間に全ての罪が赦される。

どんなにメチャクチャな生活をしている人でも、ジハードしたら全部の罪が赦される。「あんなに酷い生活していたから、こいつがイスラムのはずがない」ではなく、「あんなにも酷い生活してたから、一発逆転でジハードしかない」という事になる。

②天国に直行できる。ジハードでない人はお墓の中にずっといるそうです。ジハードで死んだ人だけが天国に直行できる。素晴らしい所に行ける。

③天国で72人の処女の妻をもらう。

④自分の親・兄弟・親族・親友・色んな人たち70人を天国に入れていただくよう、アラーの神様に推薦する執り成しの特権が与えられる。これが大きい。

親より先にジハードしたら、親孝行した気持ちになるんです。

親が敬虔な人でも本当に天国に行けるか分からないけど、自分がジハードして、70人のリストのトップに親やお兄さんを入れたら、彼らはそれで天国に行ける。そういう思想だそうです。

これをイスラム国はホームページに載せるのですが、そのクオリティはプロ級だそうです。

ハリウッドも顔負け。作っても潰されるけどSNSで広がる。

消しても消しても拡散する奴が世界中にいてるから消えへんねん。それで、どんな事が起こっているか？

メリーランド大学のグローバル・テロリズム・データベースによると、自爆テロで亡くなった人は2000年が39人。2010年は175人。2015年は915人。2016年は982人。飛躍的に増加している。なぜ、こんな恐ろしい事をするのか？これだけが確実に天国に行ける道だから。つまり、やけくそでやっているんじゃないで、イデオロギーに基いている。教えに基いているんですね。

ジハード戦士たちを自爆テロにかき立てているエネルギーは死後の審判への恐怖だ、と言う事が出来ると思います。そのままでは安心して死ねないので自爆テロを敢行する。安心して死ねないのはなぜ？救い主がいらないからです。

今日のテーマは「**イスラムの論理と聖書の福音**」なので、聖書を見たいと思います。締めくくりとして、“キリストの福音がもたらすものは何か”というポイントでお話したいと思います。

1コリント 1:30 しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとなりました。

「**神によってキリスト・イエスのうちにある**」に*が付いていて、下の欄外注の別訳には「**イエス・キリストによって神の子です。**」

イエス・キリストを信じる事によって、神様の子供として迎え入れていただく事ができるというのです。キリストが神の子とされた者たちに与えてくださるのは、総称で言うなら**神の知恵**です。**神の知恵**を細かく分けるなら、**義と聖めと、贖い**を下さる。

福音がもたらすもの 1) 義。義を下さるとはどういう意味か？簡単に言うと、安心して死ねる根拠です。

1988年、共産圏ポーランドにジャン・グズデルスキーという鉄道員がいました。連結器を見守る仕事。ガチャーンとやった時に事故が起こって、頭を強打して、すぐに救急車で運ばれたけど昏睡状態。奥さんのゲルトルーダさんは医師から「最悪に備えてください。ご主人は危ないです。」

でも、彼女は希望を失う事なく、ご主人の看病に毎日通い、毎時間体の向きを変えたり、家族も順番にお見舞いに行ったりして見守っていたら、なんと皆さん、19年後に意識を取り戻すんです。19年ですよ。最初に見たのは奥さん。自分が知っている奥さんは20年若いわけよ。自分も20歳歳取っているけど。ハッと見たら床擦れ全然無い。19年間ずっと私に付きっきりで看病してくれたのか！妻の献身的な看病に感動して驚きます。彼女のやつれた姿は、自分をほったらかしても良かったのに、19年間、自分のために命を使った事による衰えでした。そして今、自分は歩いている。

窓を見た時、もっとびっくり。彼が事故に遭ったのは1988年です。翌1989年にベルリンの壁が崩壊。それで、ポーランドも共産体制がひっくり返って自由主義・資本主義・民主主義になった。もう尾行も・ノルマも・秘密警察もない。本人は19年という実感はないんですよ。寝てて、パッと目を開いたら19年後やねん。目開けててモノトーン。目つぶって、もう1回開いたらフルカラーみたいな。これ、ギネスに載ったそうです。「嘘みたいだ！」でも事実なんですね。

この変化はなぜ起こったのか？彼が全く知らない時に、奥さんの献身的な看病があったからですよ。呼びかけても呼びかけても、何の反応も返事もしないのに、一生懸命呼びかけて呼びかけて。19年間、自分の人生の重要な部分を献げたんです。人生って命でしょ。人生80年と言うけど、この80年は命ですよ。寿命と言うけど。

自分が何にも出来ない時、1 番元気だった 20 年間でくれた奥さんの犠牲によって、また息を吹き返す事が出来た。奥さんを改めて愛さずにはおれなかったというのは当然だと思います。

それと同じように、創造主から離れ、神から働きかけを受けても何も反応出来ない、霊的に死んだ状態の私たちに向かって、神様はいつもいつも働きかけておられる方です。

聖書メッセージを通して・何かの本を通して・事件を通して・美しい自然界を通して・誰かとの出会いを通して・このような集会を通して。

あなたが昏睡状態で全然知らなかった時に、神様はあなたの罪の償いを全部イエス・キリストに背負わせて、あなたの身代わりにさばいてくださったのです。

ポーランドの 1988 年時代と 19 年後の違いは大きいと思うけど、天国行ったら、もうこんなじゃない。この間の日曜日も言ってたけど、死語ってあるでしょ。今はもう使わない言葉。

“今風の事”を昭和の人は「ナウイ」。今、誰も使わへん。

“男女の一组”を私の母の世代は「アベック」。私の世代は「カップル」。今の十代は「リア充」。

リアル充実。ほんまかいな。リア充世代は「アベックで、なんやねん、それ？」

使わない言葉。天国行ったら、いっぱいあると思いますよ。

刑務所・病院・育毛剤。「なんや、それは？」警察・牢屋・死・涙・別れ・悲しみ・嘆き。何もない。

自分が亡くなって、次に目を開けた時、そんな世界だったらどんなに素晴らしいか。

神様はそれを準備してくださっているんですよ。

キリストにあって義とされて、天国に入る資格を与えてくださる。義としてくださる。

福音がもたらすもの 2) 聖め。聖めはキリストに似るという意味です。

キリストと共に歩む事によってキリストに似ていく。ある人は“聖化”とも言います。

私は毎週日曜日、朝 7 時 45 分から『聖書と福音』というラジオ番組をさせていただいています。

来年の夏でなんと 1000 回目。放送 1000 回。塵も積もれば山となる。塵じゃないけど。

今まで同じメッセージした事…、2 回しかありません。あんのかよと。熱出て、どうしようもなかった時。

2 回だけあります。その時の評判が良くて、自信失くしたのを覚えているんですけど。

その番組はライブではなく、予め収録・録音して、出来たものを放送局に持って行って流すという形です。収録の時は、上からマイクが 2 本下りてて、息がカットできるような丸いのが付いてあって、そこで話すのですが、私は 10 分のメッセージを話して、その時使うゴスペルを選んだら、とっとと帰ります。

「チャオ」みたいな感じ。

それだけでは番組・コンテンツにならないんです。私のメッセージの前段に司会者のを入れて、後ろに讃美歌を入れて、来週のなんか「ごきげんよう」みたいなのをに入れて。それが、ものすごい大変で手間。

どうも私は話す時の癖で「シ・シ」って言うてるみたい。それを消す係がいるわけよ。

「シ」ピッ。「シ」ピッ。大変だ、これは。でも私は完成を見届けることなく「チャオ」と行くんです。

おってもしやあない。役立たへんから。私がおったら「ちよっ、のいて！」になると思う。

だから、私は自分がなすべき分を果たしたら、委ねて帰るんです。

どんな偉大な芸術家も 1 番最後の作品は未完成で終わります。

「もうちょっと寿命があつたら…」と悔しがりながら、完成前の作品を残して死んで行く。

クリスチャンの人生は、自分が果たすべき分をやったら、後はもう神様に任せる。委ねる。そしたら、神様がそれを用いて、キリストがそれを使って、完成させてくださる。私は自分が出来る分をやったらいいんです。

ONE PIECE (ワンピース) のサンジが言ってましたよ。「1人で全部できる奴なんていねえんだ。俺はおめえの出来ない分をやる。おめえは俺の出来る分をやれ。」海賊船のコック。「ええ言葉や」と思って。私が出来るのは小さな部分だけど、その小さな部分をキリストが用いて、人類救済大計画の1つの駒として使ってくださいと思ったら、キリストと共に歩むのが楽しいね。

福音がもたらすもの3) 贖い。ここでの贖いは体の贖いです。滅びない体・朽ちていかない体・栄光の体になる。

ビリー・グラハム (1918-2018) が2月に亡くなりました。99歳ですよ。あのトランプ大統領が「ビリー・グラハムの遺体は国会議事堂に置いて、皆謁見できるようにしよう。」周りを福音派が固めているからというのもあるかもしれませんが。彼は20世紀に、2億5千万人以上に福音を届けたと言われています。インターネットがない時代に2億5千万で、すごいと思う。今はインターネットがあるから、ヒカキンとかすぐ抜くと思いますよ。でもあの時、すごい。

奥さんのルースさん (1943-2007) は十数年前に亡くなっていてユダヤ人。先祖を辿るとユダヤ人が入っているんです。彼女のお墓には『工事完了 忍耐感謝』と書いてあります。

クリスチャンはこの地上で、キリストという完成形を目指して工事されている最中の人間なんです。工事は騒音出る・粉塵出る・渋滞になる・周りに迷惑かける。だから、この場で前もって謝っておきます。どうもすみませんでした。赦してください。もうね。クリスチャンになった後もスカタンばかりこいて。

工事中は皆さんに迷惑かけて、忍耐を強いている。だけど、キリストがもう1度来てくださった時、私に罪を犯させてしまう肉体は栄光の体に変えられて、工事完了するんです。その時きっと「高原さん、待った甲斐あるわ」と言ってもらえると思う。『工事完了 忍耐感謝』が墓碑銘です。

この体の贖いは、キリストが来られる時に全てのクリスチャンに起こる事です。そしてキリストの再臨は、そんなに遠い話ではないと私は信じています。

福音が私たちにもたらすものは義と認められ、聖化を与えられ、肉体が栄光の体に変えられる事。神様はこれを全部準備して、皆さんが取りに来るのを待っています。是非、イエス・キリストを信じて受け入れてください。心からお勧めします。

~~~~~

- \* 今回用いた聖書は新改訳第3版です。
- \* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
- \* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約14分) も是非どうぞ。YouTube もあります。
- \* YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」(約10分) も是非見てください。

動画筆記 : Rumi